

四島のかけ橋

第73号
2023年8月1日
(火曜日)

発行所
北方領土返還要求運動
神奈川県会議
〒231-8588 横浜市中区日本大通1
TEL 045-285-0905
発行人 綾井 祐一



四島のかけ橋 (北海道根室市)

第一号議案役員選任の選任については、会長には、選出母体の役員改選により、前神奈川県議会議長のしきた博昭氏に代わり、先の県議会議で新たに神奈川県議会議長に就任した加藤元弥氏を選出しました。また、平成元年から三十年以上にわたり、副会長としてお支えくださった、白石俊雄氏(日本労働組合総連合会神奈川県連合会顧問)が勇退され、新たに、林克己(日本労働組合総連合会神奈川県連合会事務局長)が副会長に就任しました。このほか、任期満了及び選出母体の役員改選等により、令和五年度役員名簿のとおり、それぞれ役員を選出(再任)しました。

令和5年度役員名簿

| 役職名 | 氏名 | 団体等の職 |
|------|---------|-------------------------------|
| 会長 | 加藤 元 弥 | 神奈川県議会議長 |
| 副会長 | 林 克 己 | 日本労働組合総連合会神奈川県連合会事務局長 |
| | 久 本 卓 司 | 公益社団法人日本青年会議所関東地区神奈川ブロック協議会会長 |
| 事務局長 | 萩 原 周 子 | 日本労働組合総連合会神奈川県連合会副事務局長 |
| 理 事 | 井 村 浩 章 | 神奈川県商工会議所連合会専務理事 |
| | 由 良 竜 一 | 神奈川県農業協同組合中央会常務理事 |
| | 石 川 壽々子 | 神奈川県地域婦人団体連絡協議会会長 |
| | 斉 藤 洋 子 | 川崎市地域女性連絡協議会理事 |
| 監 事 | 綾 井 祐 一 | 北方領土問題対策協会神奈川県推進委員 |
| | 高 橋 征 人 | 神奈川県漁業協同組合連合会代表理事会長 |
| | 坂 井 雅 幸 | 公益社団法人横浜貿易協会常務理事 |

新会長に

加藤元弥神奈川県議会議長 を選任

北方領土返還要求運動神奈川県民会議では、七月十一日(火)、書面にて令和五年度総会を開催しました。

北方領土返還要求運動神奈川県民会議

令和五年度総会を開催

◆加藤元弥会長◆
神奈川県議会議長(横浜市西区選出)。平成十九年に初当選以来、五期当選。

この間、防災警察常任委員会、県民企業常任委員会、予算委員会、議会運営委員会等の各委員長及び自由民主党神奈川県議会議員団長を歴任。令和五年五月、第一一六代神奈川県議会議長に就任。神奈川県出身。五十六歳。



会長就任に当たって

神奈川県議会議長 加藤 元 弥

このたび会長を仰せつかりました、神奈川県議会議長の加藤元弥でございます。皆様のご協力のおかげで、北方領土返還という大きな目標に向けて、尽力してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

昭和六十年十一月に設立したこの県民会議も、今回で三十九回目の総会を迎えることになりました。北方領土返還に向けた会員の皆様の熱意と長年の御努力に、心から敬意を表します。さて、北方領土問題に関して、ウクライナ情勢を踏まえた我が国の措置に対し、ロシア政府が平和条約交渉の中断や四島交流及び自由訪問の事業の停止を一貫した基本方針の下、この問題に対する県民一人ひとりの理解と関心をさらに深め、一日も早い返還を求める多くの声を結集するなど、返還の機運を高めてまいります。

このように情勢が厳しい今こそ、ご高齢になられた元島民の方々に寄り添い、県民総ぐるみで、返還要求の取組を続けていくことが必要です。我々県民会議は、北方領土問題を解決して平和条約を締結するという我が国の一貫した基本方針の下、この問題に対する県民一人ひとりの理解と関心をさらに深め、一日も早い返還を求める多くの声を結集するなど、返還の機運を高めてまいります。

とりわけ、「北方領土問題の国民世論の啓発に関する調査」によれば、北方領土問題に対する関心が、年齢が若くなるにつれて低くなる傾向となっており、若年層の意識向上と返還運動の担い手の確保が大きな課題となっております。こうした状況を踏まえ、引き続き、我々県民会議は、神奈川県北方領土問題教育者会議と連携し、県内の中学生、高校生を対象に「北方領土問題に関する作文コンクール」を実施するほか、県民大会の取組報告を取り入れるなど、若年層への北方領土問題の理解の底上げを図り、青少年及び教育関係者に対する啓発等を通じた運動の担い手としての後継者育成を強化していく所存です。

灯台

今回はNHK番組「英雄たちの選択」で放送された「検証―二〇〇〇年前のロシア危機―露寇事件」松平定信三つの意見書から、二〇〇〇年前の露寇事件について詳細を研究しました。江戸後期、通商を要求するロシア軍艦が蝦夷地各地を襲撃したこの事件は、爛熟した文化の華が開き、一見泰平にみえる日本で改めて国防の重要性を覚醒させた。この事件は、ロシアとの交流の発端かと思われ、以前読んだ書籍ではアメリカや諸外国が日本に通商を求めた目的は日本近海で捕鯨でき、当時外国漁船はクジラの油を燃料に

供給その他食料の補給などを日本側に求めていたものでした。北方領土で日本がソ連に不法占拠される前の写真には捕鯨が盛んだった写真が多く残されています。露寇事件は、文化三年(一八〇六年)と文化四年(一八〇七年)にロシア帝国から日本へ派遣された外交使節だったニコライ・レザノフが部下に命じて日本側の北方の拠点を攻撃させた事件です。事件名は日本の元号に由来しており、ロシア側からはフヴォストフ事件と呼ばれています。

この事件は、江戸時代後期の一八〇四年、ロシア皇帝アレクサンドル一世から派遣されたニコライ・レザノフにより行われた通商要求行動の後にロシア側から行われた軍事行動でした。同事件以降、江戸幕府の首脳は、ロシアの脅威を感じることを、以後、幕府は鎖国体制の維持と国防体制の強化に努めたこととです。また、日露関係の緊張によって、幕府は自らの威信を保つためにも内外に対して強硬策を採らざるを得なくなったとされています。このことは、一八一一年のゴローニン事件の原因となったとされています。さらには、この事件は平田篤胤が国学を志すきっかけとなったともいわれています。

ロシアによるウクライナ侵略で北方領土問題交渉も中断されていますが、改めて、この問題の解決をロシアに求めていくことが肝要であり、訴え続けることが我々の使命です。(綾井)

